

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

August 2022 vol.100

August						
S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

今月は「見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち」100号達成の節目ということで、これまでに紹介した碑や史跡の全体を俯瞰しながら振り返ります。表面は地震にまつわる碑や史跡です。右下の地図もご参照ください。

まずは宝永4(1707)年の宝永地震、安政元(1854)年の安政東海地震・南海地震など、南海トラフの地震(●)です。南海トラフでは、昔から繰り返し大きな地震が発生し、揺れとともに大きな津波が押し寄せました。南海トラフの地震にまつわる碑や史跡は、ささゆりの里の震災鎮めの石碑(86)や御厨神社の絵馬(7)など、渥美半島を中心に数多く残されています。また、海岸沿いの神社や寺院、集落が高台に移転した記録(42)も見られます。



御厨神社の絵馬

渥美半島の先端、伊良湖岬では、南海トラフで過去に発生した超巨大地震による津波で運ばれた可能性のある大きな津波石(68)も見ることができます。

続いて、明治24(1891)年の濃尾地震(●)です。濃尾地震は、岐阜県本巣市の根尾谷断層を震源とする内陸活断層型の地震で、愛知県・岐阜県を中心に甚大な被害が発生しました。震源に近く、濃尾平野の地盤が軟弱な地域が広がる一宮市や稲沢市は、愛知県内でも被害が大きく、慰霊碑が数多く残されています(11,35,45,94)。



天王川公園(津島)の慰霊碑

また、津島(3)や清須(18)、名古屋市内でも熱田(26)や大幸(43)、守山にかけて広く慰霊碑が見られるなど、碑や史跡の所在から地震の規模の大きさを実感するとともに、教訓を後世に伝える強い気持ちがあった時代背景を感じ取ることができます。



関東大震災供養堂

大正12(1923)年の関東大震災(●)では、この地域では直接的な被害は発生していませんが、被災地から多くの方が震災避難としてこの地域を訪れており、愛知県でも、名古屋市千種区の日泰寺を中心に、受け入れ活動が行われました。こうした経緯からか、関東大震災にまつわる慰霊碑は日泰寺を中心に見られ(1,13)、犠牲者を供養するための供養堂(25)も建設されています。

次は、昭和19(1944)年の昭和東南海地震(●)です。昭和東南海地震の慰霊碑が確認されているのは、名古屋市南区、半田市、豊橋市です。半田市では、中島飛行機の軍需

工場が地震で被害を受け、多くの犠牲者が発生しました。工場には全国各地から学徒動員が行われており、半田市内には、犠牲になった学徒を慰霊した追憶之碑、殉難学徒之碑(8)など、昭和東南海地震の犠牲者を慰霊した慰霊碑が数多く残されています(17,23,72)。豊橋市の慰霊碑(32)も、当時、半田市の中島飛行機の工場へ動員されていた豊橋市内の生徒を慰霊するためのものです。



追憶之碑

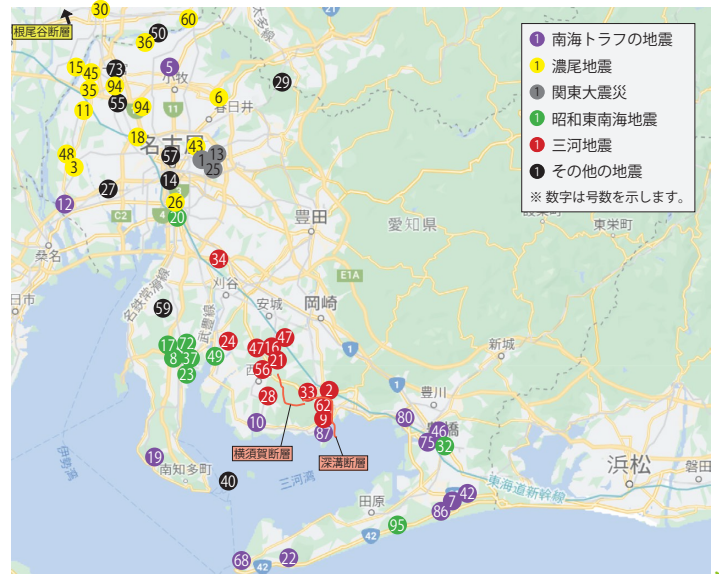
名古屋市南区の名南ふれあい病院の敷地には、同様の軍需工場で、地震で倒壊した三菱重工の道徳工場で犠牲になった方々の慰霊碑(20)があります。碑や史跡の所在から、昭和東南海地震では、こうした軍需工場に被害が集中していた可能性があると言えます。

最後は、昭和20(1945)年の三河地震(●)です。三河地震は深溝断層・横須賀断層という2つの断層の活動により引き起こされた地震です。被害が大きかったのは、幸田町、蒲郡市の深溝断層の近辺と、安城市、西尾市の横須賀断層の先の地盤の緩い平野部です。碑や史跡は、この2つの断層に関連する地域に集中しています。

深溝断層の近辺では、断層近くの揺れの強かった地域で慰霊碑(9)が見られるほか、断層そのものや地割れの露出(33,62)、倒壊したお寺の土堀(2)などが史跡として残されています。安城市や西尾市の平野部では、揺れの強かった矢作川をはさんだ両市の地域を中心に、多くの慰霊碑が残されています(16,28,47,56)。



本光寺の崩れた土堀



災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただけでなく、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしていきたい。

裏面は水害や土砂災害にまつわる碑や史跡です。まずは昭和 34(1959) 年の伊勢湾台風 (●) です。碑や史跡が県内に広がっており、浸水範囲がイメージできますが、特に被害が大きかった地域には、慰霊碑も集中しています。

名古屋市南区では、高潮による浸水とともに、貯木場から流出したラワン材により被害が拡大した、現在の東海道新幹線から西の地域に被害が集中しています。中でも、大江川と天白川に挟まれた白水学区・柴田学区では、実に 861 名の方が犠牲となっており、この地域だけでも 5 つの慰霊碑 (93) が建てられています。

海部地域も堤防の決壊による浸水と長期湛水により、大きな被害が発生した地域です。鍋田干拓地の神明社 (39) や飛島村の伊勢湾台風殉難之碑 (64) などの慰霊碑や史跡のほか、河川や海岸の堤防復旧の努力をたたえた災害復旧記念碑 (84) なども見ることができます。



鍋田神明社の
観音像

ほかにも、浸水が長期に及んだ津島 (78,83) や半田 (98)、河川堤防の決壊により被害が発生した刈谷 (63) などにも慰霊碑や史跡が残されており、被害の広がりを実感することができます。

続いて、西尾市の三河湾に近い地域で大きな被害が発生した明治 22(1889) 年高潮 (●)、昭和 28(1953) 年 13 号台風 (●) です。2 つの災害にまつわる慰霊碑は、西尾市の一色から幡豆にかけて広く見られます (44,74,97)。

昭和 28 年 13 号台風では、明治 22 年高潮を経験した方の教訓を活かし、早めの避難行動などにより、被害が低減されたとも言われています。各地の神社や寺院に残された明治 22 年高潮の慰霊碑が、災害の伝承に一役買ったことでしょう。



宝珠院の
三界萬霊碑

犬山市の入鹿池では、慶応 4(1868) 年の長雨で堤体が決壊し池の水が流出、大きな被害が発生しました。

入鹿切れと呼ばれるこの災害にまつわる碑や史跡 (●) は、入鹿切れの際に流れ着いたと言われる、羽黒の興禅寺の入鹿切れ流石 (52)、朝日地区の入鹿洪水溺死群霊塔など、犬山市から大口町にかけて広がっており (81)、浸水範囲とよく対応しています。また、愛知県の浸水想定区域図における、浸水深 2 ～ 3m のエリアとも対応しています。ハザードマップの情報に、地域の碑や史跡の情報を組み合わせることで、イメージを補強することができますね。



入鹿切れ流石

このほか、岡崎市では、矢作川やその支流の乙川で、堤防が決壊する水害が繰り返し発生してきており、各地に慰霊碑 (31,58,71) が建てられています。

また、新城市の四谷には、明治 37(1904) 年の山崩れで犠牲になった方々を慰霊する山崩遭難供養塔 (61) が、豊田市の小原や藤岡には、昭和 47(1972) 年 7 月豪雨による土砂災害で犠牲になった方々を慰霊する災害犠牲者慰霊碑 (67) や殉難の碑が残されています。四谷は千枚田が、小原や藤岡はふじや四季桜がそれぞれ有名な観光名所でもあります。かつて大規模な土砂災害が発生し、大きな被害が発生した場所ですが、同時に、自然が生み出す風光明媚な環境が受け継がれている場所でもあります。



災害犠牲者慰霊碑

さて、これまで 100 回にわたり、愛知県内を中心に災害にまつわる碑や史跡を紹介してきました。個々の碑や史跡には、犠牲となった方々への慰霊の思いや、災害を二度と繰り返さないようにという決意が込められており、そのひとつひとつから、今日の備えの大切さを感じ取ることができます。一方で、各地に広がる碑や史跡を俯瞰してみると、それぞれの災害の特色が実感できます。個々の碑や史跡に思いを馳せながら、それぞれの災害の全体像にも思いを巡らせていただき、次に起こる災害をイメージして、できることから防災に取り組んでいただくことが大切です。

名古屋大学減災連携研究センター HP「災と Seeing Map」(<https://www.saitoseeing2020.jp/map.html>) では、これまでに取り上げていないものも含めて、各地の碑や史跡の位置を地図に示しています。ぜひ合わせてご覧ください。



◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 2022 年 8 月)